

総合格闘技 全国ワンツー

東温の武道塾 中島(松山学院)と岸本(伊予農)



第6回MMA甲子園でフライ級王者に輝いた中島優晴(左)と準優勝の岸本柚稀—東温市田窪

「MMA甲子園」フライ級で激突 組み技と立ち技熱く

総合格闘技でトップレベルを目指す、しのぎを削る高校(17)＝松山学院高3年＝と岸生がいる。日本空手道武道塾 本柚稀(16)＝伊予農高2年。

今夏に大阪で開かれた高校生の全国大会「第6回MMA甲子園」ではフライ級決勝で激突し、中島がチャンピオンに輝いた。

同塾の今治信幸塾長の孫で6歳から空手に取り組む岸本に対し、中島は中学3年の時に見た元ボクシング世界ヘビー級王者マイク・タイソンの動画をきっかけに格闘技に興味を持ち、塾の門をたたいた。キャリアは異なるものの2人は同年代のライバルとして鍛錬を積んできた。

MMA甲子園には、各階級の地区予選を勝ち上がった約20人が参戦した。2人は関西予選決勝でも対戦し、中島が勝利。岸本も大会推薦枠を獲得し、ともに同塾生として初の本大会出場を決めた。

4人で争ったフライ級の初戦で、中島は前大会準優勝の九州王者を撃破。岸本は東北王者を退け、全国の舞台で同

門頂上対決が実現した。

互いに「仲間なので闘いにくいが、やるからには絶対勝ちたい」と強い思いで臨んだ決勝。開始のゴングとともに組み技が得意な中島が、立ち技で応戦したい岸本を倒し上からパンチを連打、1ラウンド35秒でTKO勝ちを収めた。

中島は「勝つと信じて闘った。これまでの練習は無駄じゃなかった」と胸を張り、岸本は「(中島は)稽古の時に以上に強かった」と唇をかみながらも「自分はまだ来年も挑める。体を大きくして日本一になりたい」と前を向いた。

教え子の快挙に、今治塾長は「塾生全体の刺激になっている。熱いライバル関係の2人の活躍は素晴らしい」と目を細める。高校卒業を控える中島は「夢は格闘家。今回の優勝でプロからのオファーを期待している」とし「仲間とともに強くなれるのが競技の魅力。ずっと続けたい」と力強く語った。

(山内拓郎)